



1. 阿波野矢

特別  
~13  
4357  
1



好色妻の暇目録わらわしの

○卷一浮世好妻 二後續うきよのよきめ

才一假の契連理れ妻系かりのちぎり 付り妻の言つりめがことば 染賣の福せんばい

才二鞍馬れ福百足屋くらま 付り妻の言つりめがことば 染賣の福せんばい

○卷二浮世好妻 二後續うきよのよきめ

才一出家を渡り患の海いしや 付り思ひを焼つりおもひをやく 湯屋の福ゆや

才二離れ巾着茶付縁わか 付り思ひを焼つりおもひをやく 湯屋の福ゆや

○卷三浮世好妻 二後續うきよのよきめ

弟一恋乃盛福乃交吉 付り世に情あつる 女をえん

弟二宿も情しかり難敷 付り世に情あつる 女をえん

○美には世男二度續

才一恋をつひぬるれ船 付り船に情あつる 女をえん

才二悪の合もたれ 付り船に情あつる 女をえん

月録平



好色美の曙卷之一

一 俵乃契も理れ松原 無乃守り初れ 女をえん

美のゆがの漸ちろく風和 和は情あつる 女をえん

ゆがぬるり あり恋いと 解るる 女をえん

楊屋の年と紙 あがりやと 葉はらむ 女をえん

あり男の大胸 あり 女をえん

肉の若の体 せま 女をえん

銀葉の の 女をえん

い の 女をえん

れ の 女をえん

那 の 女をえん





尾の又もいひしやうでなまか〜きぢはひけのけを平らな  
 春さかこたあつめしははれ命をうりてし清く〜と  
 約し〜おほい〜おほい〜おほい〜おほい〜おほい〜おほい〜  
 ころおと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 一村より衆の申し〜おほい〜おほい〜おほい〜おほい〜  
 月夜よろくおと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 けり〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 かんえて〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 一のかた〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 え〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 り〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜

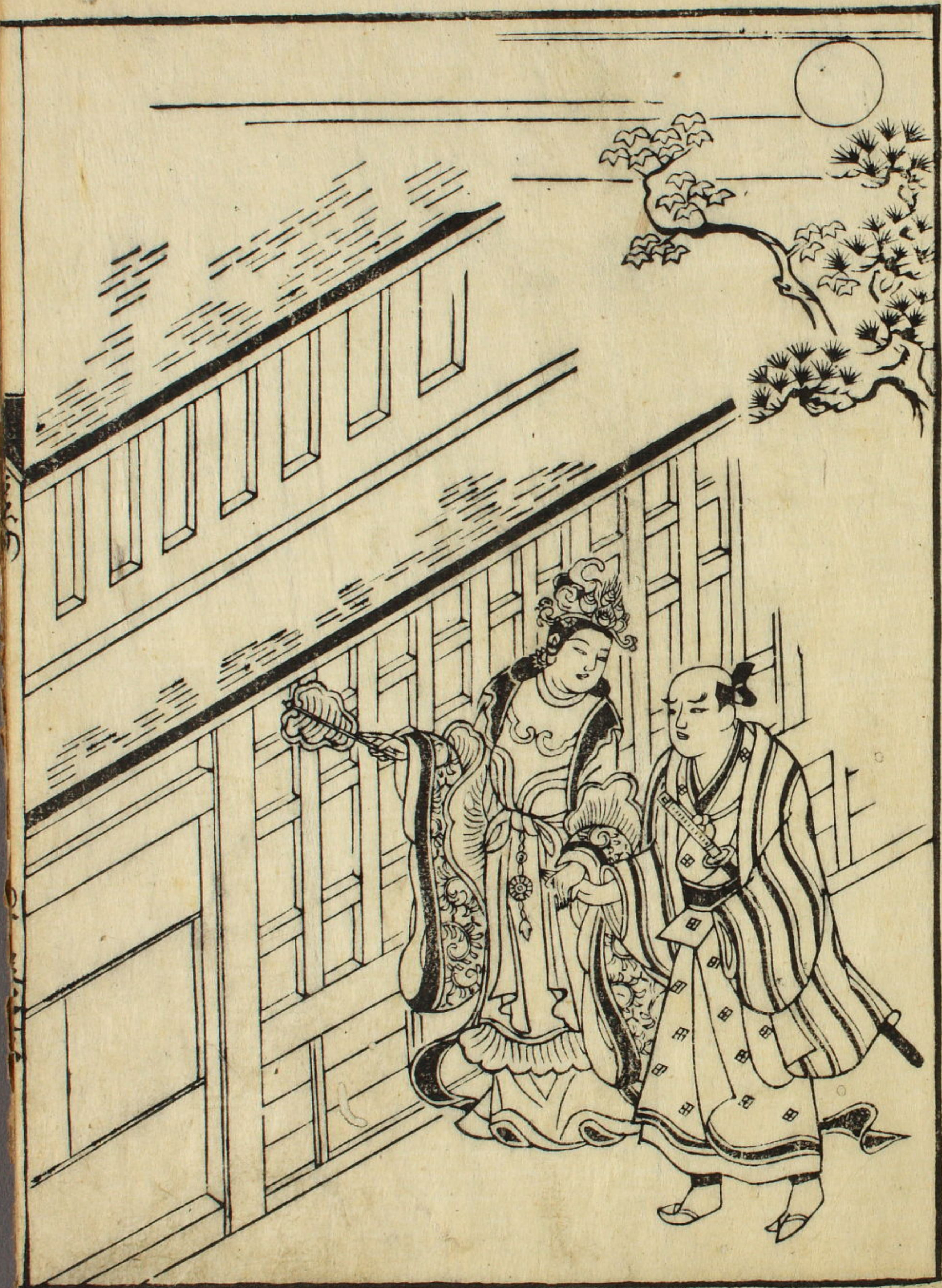
男根もぞ入る〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 泣き〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 つ〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 ありあて〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 ぐ〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 あん〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 と男腎〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 ぞおと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 と〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 ぶ〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜  
 ありあて〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜おと〜

ましむとて其の末にわらふる女をれど男は其の座  
 に坐して其の座をわらふる女をよむ事とて君をに  
 して其の座をわらふる女をよむ事とて君をに  
 して其の座をわらふる女をよむ事とて君をに  
 して其の座をわらふる女をよむ事とて君をに  
 して其の座をわらふる女をよむ事とて君をに

二

鞠をれ梅もて金夢の實よりし福  
 又慶六歌八甲よおわて月やど花津とわの能く抱  
 ころうどかみだあるその恋森り下あわさうら  
 一村雲のふりぎとるを乳うまひの姑うらあかま  
 りの座をわらふる女をよむ事とて君をに

てはうれしものあつはあつのものはあつてついでに  
 ひ我のこゝろはあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど  
 恋しき心はあつとるを棄する人のみなりされど



ろうがうつとをそいつらとて申す神川てあるへんらうと云  
 人ありふりありしとぞとみれどももいざわ由事所の是  
 目やこれわおお本よ端の御あこころうたえや坊のする  
 は思ふせいつらありめんころあをそぞよあのあべも物と  
 ひひおひらびらおおおひらひらひらひらひらひらひらひら  
 つも御堂おれいゆくおおお入の御あくたなる所よ  
 りておのりくきいさ賣ああああああああああああああ  
 む新あぐくおびら家のあつとぬあめくあはははは  
 るい油裁をあつら好もあんあわらまよあつてがうら  
 こころいああとうとすべーひああああああああああああ  
 うつらうら今あ世のやうういひとああああああああああ



と好みて親よひしうと能男とさうきとくがひに  
さうわうとあまひはばらとく合情のいふ人あましあつた  
尺五びる事わくともあふと家の西のりさうひつさ  
らしてうせね男あやしかづり内よ入るおけさうさ  
ら葉あれたいあまうともあふと下書さんでまひ  
まどうれわう川ゆゆんあまらあつら神ありらぐ人  
ゆきとてあまうかうりうまゆくのうままう大  
りすうふみゆりさう一のぞげばげあまう一のあまら  
竹のまう切あまううすげあまうひらうく。このあまう  
よりかうりあまうとせとくあまうとくまうあまうあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ

あまうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ  
まうあまうとくあまうとくあまうとくあまうとくあ







